

元禄十一年 摂州川辺郡万多羅寺村 五人組御仕置帳

寅ノ三月

- 一 前々從公儀度々出候御法度書之趣弥以堅相守、御制法之儀不相背様ニ村中小百姓下々迄可申付事
 一 五人組之儀町場は家並、在郷は最寄次第家五軒宛組合、子共并下人・店借り・借地之者ニ至迄悪事不仕様ニ組中々無油断可令詮議、若徒もの之在て庄屋申付をも不用候へ、可断之事
 一 入売買一切御停止ニ候事
 一 附り、男女妻公人年季之儀 公儀御定之通拾ケ年ヲ限り可申事
 一 毎年宗門改帳二月迄之内ニ可差出、若御法度之宗門之者在之ハ早速可申出、切支丹宗門之儀御高札之旨可相守、宗門條之通人別ニ念入宗門帳可相濟候て、後召抱候下人等ハ等請狀別紙ニ可取置事

- 一 百姓衣類之儀結構成ものを不可着、名主妻子とも二絹袖布木綿可着之、平百姓は布木綿之外不可着之、りんす・さや縮緬之類ハ糸リ・帯ニも致間敷候、然とも平百姓ニても身体宜敷ものハ手代迄断立差図ヲ請綱袖可着事
 一 附り、男女ともに乗物ニのるへからず、惣て屋作等目ニ立候普請着かましき義仕間敷事
 一 駕取嫁取之祝義着かましき義無之様二分限より輕ク可仕、人大勢集大酒不可吞候、所ニより蚊屋之祝・新宅之ひろめ・初産之いわひ不相応之祝仕候由可爲停止、応分限内所ニて輕ク祝可仕候
 一 附り、葬礼野酒一札停止之事
 一 捨子堅不可仕、若他所もの捨置候ハ、村中ニて致養育早速可注進事
 一 生類憐之義心懸不突ニ無之様ニ可仕候、不仁義一切可致之事
 一 獵師之外鳥獸一切取へからず、獵師たりといふ共鶴・白鳥取候義御停止ニ候、若村中ニて鶴・白鳥商売致すものあらハ可断之事
 (…略…)

- 一 当村ニ有之出家、社人・山伏・行人・道心者・非人等其外機多之類迄常々致吟味候て胡乱成もの住居為仕間敷候、庄屋・年寄ニ不相違候て他所より來候ものニ一夜之宿をも不仕様ニ右之者とも義堅可申付事
 一 村中之者内或ハ立退或ハ逐電或ハ身之上つふれ候て住居難成もの之ハ可注進、又ハ他村を子細有之て立退候もの親類たりといふとも当村ニ一切不可差置事
 (…略…)
 一 百姓田畑子孫二分ケ為取候とも老人前之高五石より内に不可分、小高之百姓ハ子孫二分爲取間敷候、若子細候て分義も在之ハ可得差出、惣て新規ニ百姓有付候ハ、可注進、跡式之儀存生之内庄屋・年寄爲立合書付置後日ニ出入無之様ニ可心懸事
 一 前方帳ニ付有来リ酒屋之外、新酒屋又ハ請売之酒不可仕事
 一 当村之内ニて能あやつり相横又ハ狂言其外見セ物類之芝居爲致間敷候、私傾ニても分郷或ハ村隣ニても当村境目まさらハ敷地ニて致候ハ、芝居不始以前早々可注進事
 一 惣て遊女・野郎之類一切当村ニ置へからず、一夜之宿も致間敷事
 (…略…)

- 一 五人組宗門帳二押候外ニ別之印判拵置申間敷候、若子細候て印判替り候ハ、庄屋・年寄ハ手代方迄可相断、其外之百姓ハ庄屋・年寄へ可断、名を改候ハ早速致断五人組帳・宗門改帳ニも改候名を可記之事
 一 切支丹ころひ之者并、類族有之分ハ別帳ニ記之切支丹奉行差出置之、若他村より縁組等ニて当村へ右之やから來候ハ、早速可注進事
 一 田畑并山林等元売売買御停止ニ候、若買物ニ入拾ケ年ヲ限り買手形二庄屋・五人組加判可爲仕、田畑買ニ入金銀ヲ借り田地ヲ金主ニ爲作則年貢ハ地主より出候義不可仕事
 (…略…)
 一 惣て家業を第一ニ相勤へし、百姓不似合遊芸を仕好或ハ惡心を以公事すきをいたし非公事をすゝめ偽りたくミ人之害をなすもの又は不幸之輩あらハ、不隱置可申出、何事ニよらず神水ヲ吞着紙ヲ書候て申合一味同心いたし徒党かましき義不可仕事
 一 盜賊悪党人有之ハ、斷人可仕、褒美可爲取之、其上あたをなさゝる様ニ可申付事

(…略…)
右の条々堅可相守、此旨若違背之望あらハ可曲事、此帳面
毎年正月・五月・十一月・七月・十二月・四月村中大小之百姓
寄合・隣ニ為就・開常々此趣合点仕罷有候様ニ入念可申付者也
元禄十一年寅ノ三月
辻弥五左衛門

前書之御ケ条々々奉拝見村中大小之百姓此五人組老人も除候者
無御座候、御ケ条書則庄屋方ニ写置申候て被仰渡之旨為説聞一
ケ条宛致合点急度相守可申候、若此旨相背申候ハ、如何様之曲
事ニも可被仰付候、為其連判如此ニ御座候、以上

元禄十一年寅ノ三月

辻弥五左衛門様

組頭
加右衛門 太郎兵衛
正福寺 又兵衛
平兵衛 次郎右衛門
源兵衛 喜兵衛
仁兵衛 孫兵衛
五人組

同村平百姓
組頭
太郎兵衛
又兵衛
次郎右衛門
喜兵衛
孫兵衛
五人組

一 田畑荒し置へからず、永荒場起返し切流又は新田
畑在之ハ早速可申出、隠置略より訴候ハ、庄屋・年
寄可為越度事

附り、たはこ本田畑ニ作候義停止之事

(…略…)

一 御伝馬宿へ定助・大助郷より人馬寄候ハ、間屋年
寄致吟味獵ニ人馬触仕間敷候、其宿之馬をかこひ
置面々勝手ニ能荷物を附候様成義一切不可仕候、御
朱印は勿論駄賃伝馬人足之義常々致吟味置無滞様ニ
可仕事

附り、助郷へ人馬触来候ハ、制限を不違可出
之、若人馬割ニ難心得事候とも先無滞出之後日可
申出事

(…略…)

一 御林・御立山之竹木ハ勿論枝葉・下草等迄公用之
外伐採間敷候、縦令百姓持林并屋敷・四壁之木ニ
ても目立候木伐遣候は書付差出得差図可伐之事
一 入合之野山・面々之持山ニても草木之根を掘取間
敷、鶴之贅を入候義可為停止、田畑え山崩砂入等
無之様ニ山林ニ苗木を植立可申事

附り、山中にて焼畑致来候所ハ格別野火附候義
停止之事

組頭
益兵衛
利兵衛
彦右衛門
伊兵衛
五人組

組頭
三郎右衛門
吉右衛門
市右衛門
太兵衛
茂右衛門
五人組

組頭
三右衛門
正膳寺
庄右衛門
清三郎
善兵衛
五人組

組頭
太右衛門
忠右衛門
喜右衛門
久左衛門
又左衛門
五人組

組頭
甚兵衛
忠兵衛
六右衛門
安右衛門
文清
五人組

組頭
茂兵衛
九兵衛
孫左衛門
吉左衛門
安兵衛
新兵衛
五人組

組頭
七郎右衛門
作右衛門
權兵衛
九郎兵衛
新右衛門
吉郎右衛門
五人組

一 諸作第一能種をそろミ候て時、耕作可念入、荒し作
り之様ニ致候もあらハ急度可令詮義、独身之百姓
長・煩ハ幼少ニて親ニ離耕作仕付難成ハ有之ハ、庄屋
・年寄立会村中にて助相、田畑不荒様ニ可仕事
附り、地所ニ不相応ニ田畑諸作ニ替り作おとり耕
作ニ不精成もの有之ハ、吟味可仕、小検見之節も引
方を為取間敷事

(…略…)

一 御年貢皆済無之以前穀物他所へ不可出之、三分一銀
・十分一銀納之為小米売候ハ先米納之員数積り納米は
と上米を拾置、次之余米ヲ売可申事

一 米納之儀庄屋・年寄立会青米・死米・くたけ・初ぬ
か等無之様ニ随分致吟味、升目不切様ニ俵入可念入事
一 俵拵之儀二重こも、小口カ、すり縄にて可仕、
船積之節一俵つゝ薦にて包、俵不損様ニ可致、俵之内

へ入候札札ハ竹にて国郡村之名・御代官之氏名・年号
月日・庄屋・米主・升取・米見之名迄銘々ニ書付、致
印判供ことに入之、外札ハ木にて竹ニても国郡村
・御代官氏名、米主之名斗可記之、札之裏俵之裏目可
書付事